

No. 1139

六大学OB紅白戦

縦ジマ立教のユニホームを着た長島。20年振りに神宮のマウンドに立った秋山——東京六大学野球連盟のリーグ結成50周年を記念した“OB夢の球宴”が11月8日、神宮球場で行なわれました。慶法立の紅軍は山本浩、長島、田淵のクリーンアップ、早明東の白軍は秋山が先発。一回の表紅軍はノーアウト満塁と秋山に襲いかかり、バッターは長島。しかし期待の4番バッター長島は併殺打、その後もヒットが出ず4打数でノーヒット。関根投手(48)、田丸捕手(50)のバッテリーは何と98才。紅軍が藤田(慶大)をマウンドに送れば白軍は荒川(早大)が代打で登場。荒川の見事なヒットでこの早慶戦は早大の勝ち。結局9回裏、白軍が2点を入れ逆点サヨナラ勝ち。往年の面影を偲ばせる数々の名場面に、集まった4万8千のファンも郷愁に浸っていました。

三億円事件時効迫る

時効までついに1ヶ月を切った。東京・府中署の三億円強奪事件捜査本部の朝。8時過ぎから捜査会議は開かれ前日の聞き込みが報告される。キャップの北野警視は捜査報告をチェックし新たな指示を与える。入念な打ち合せを済ませ刑事はホシを求めて街に出る。

事件後7年間、こうした繰り返しの中で12万人にもものぼる捜査対象者名簿が出きあがり、捜査線上に浮かんでは消えていった本部に寄せられた情報も2万件を超えた。しかし、犯人に直接結びつくものはなく遺留品や指紋、運転免許証などから犯人を追う地道な捜査が続けられてきた。

時効の迫った10月から11月にかけて八王子周辺の集中捜査が行なわれた。事件の2~3日前、八王子市中野町の草むらでオートバイを白色に塗りかえている若い男をみたという証言からここを白バイ偽装現場と断定したからだ。

そして事件の4~5日前オートバイでのりつけた若い男が白バイ偽装に使用されたスプレーと同じものを買って立ち去ったという八王子市内の金物屋の主人の証言を重視、この男の割り出しに全力を注ぐとともに、事件当日の早朝、日野市の甲州街道に白いオートバイがとまっていたという証言とも地域的に結びつくため、八王子一帯の集中捜査となった。

今八王子市内は三億円事件のうわさでもちきりだ。

“7年も前のこったからね” “つかまってもらわなきゃしゃくにさわるね” “でも利口な人だよ長い計画たててやらなきゃできないよ。のろまじゃむりだね。” “どういう人だかみてみたいよ。でてきたら”

刻々と迫る時効。その中で刑事は必死に犯人割り出しに力を入れる。聞き込みの刑事から報告の電話が入る。そこには時効など関係なくホシを追う刑事の捜査がある。“かっこいいなんて犯人を英雄視するのはとんでもないことだ。ホシはドロボウ野郎に違いないんだからね” 呟くキャップ北野警視の眼に映るどたんばでの犯人逮捕。時間に迫られる中で捜査は続く。